

NPOワンポイントアドバイス!!

～成功するイベントのコツ～

これからの季節、フォーラムや野外活動等、様々なイベントを行う団体も多くなると思います。

イベント最大の敵は、準備不足と現場の雰囲気に酔ってしまうこと。

そこで、イベントを成功させるためのコツをお伝えします。

●準備段階

① 詳細なシナリオを、より多くの人と共有する

当日のプログラム展開、運営・進行、備品リスト、施設や会場周辺の見取り図、リスク対応等を盛り込んだ、チェックリスト的なシナリオを用意し、関係者全員で読み合わせ情報共有しましょう。その際、お互いを補いあい、「全体としての成功」を目指すことを明確にしてください。

●現場運営

② 5分、15分、1時間、3時間先のイメージを持つ

リーダーに求められるのは、「現場が今どうなっているか」と「この先、どうなるか?」です。特に先のイメージをしつかり持つことで、スタッフへの指示や不測の事態の回避が可能になります。何を最優先せざるを得ないかを明確にするためにも、上記各々の先のイメージを持ちましょう。

③ 3秒ルール

それでも、アクシデントは必ず起きます。予想外の事態への対応に迫られたとき、リーダーの指示が遅くなってしまう事態をますます悪化させます。リーダーは、相談されたことには3秒以内に判断・対応するか、権限を持つ人のところへ連れて行くようにしましょう。

④ アンケート

アンケートは、当日の満足度を尋ねるためにあるではありません。団体の本当の目的を達成するため、次へのヒントを得るための手段です。そのことを考えたアンケートをつくりましょう。(詳しくは『はこまち通信22号』を参照してください)

●終了後

⑤ 報告書

イベントはゴールではありません。次へつなげていくために、報告書の作成が必要です。振り返りと次への提案を盛り込みましょう。



センター長のつぶやき

まちづくりセンター センター長 丸藤 競

6月5日、まちづくりセンターで『新地域支援事業を考える研修会』が行われました。介護保険の改正により、各地域でどのような体制をつくって行けば良いのかを、厚労省の担当官や地域で活躍している方を交えて議論しました。主催は、さわやか福祉財団。理事長は、ロッキード事件の時、田中角栄を逮捕取り調べしたことで有名になった元東京地検特捜部検事、堀田力です。

さわやか福祉財団が目指す地域社会像は、「地域の住民が

安心して心豊かに暮らせる社会」です。この理念を実現するために、国や自治体への政策提言のほか、日常的なご近所どうしの交流や居場所、サロンづくりなどを進めています。

地域では、行政や町会、社協、福祉はもちろん様々な分野で活動しているNPOや事業者等が連携し、幼児から高齢者までが安心して暮らせるように支え合い助け合うことが大切です。たとえ寝たきりになったとしても、地域や誰かに役立つことができます。自分たちのやれることを出し合いながら、尊厳ある生き方ができる地域をつくりあげていくことで、今よりずっと心豊かになるのではないかでしょうか。

実は私、さわやか福祉財団の北海道ブロックインストラクターのリーダーという立場もあります。動き出したい地域の皆様、ぜひ、私に声をかけてください。様々な支援・協力をいたします。一緒に心豊かな地域をつくっていきましょう!